

おみくり堂

本



長野県曾利遺跡出土 傘形凸帯文深鉢(井戸尻考古館蔵)

港千尋著

「掌の縄文」

縄文時代の性役割からすると、土器作りは女性の仕事だった。そのことと、縄文土器がこれほどに人を驚かせる形や紋様

をもっていることは関係するのだろうか。ため息をつきながら博物館のガラスケースを覗き、数千年前にはそこに飲み物

や食べ物が入られ、手から手へと渡っていたことに思いを馳せる。ちょっと触れてみたくなる。この写真集に載せられ

た、今生きている人の手に持たれたり抱えられたりした土器を眺めていると、なぜか、それらが生きていた時代が浮かんでくるから不思議だ。博物館に鎮座しているのを見ただけでは感じられない温もりや肌ざわりや土の感触がわかるように思えるのは、生身の人の手が添えられているからだ。その上、ふつうに土器を写しただけではわからないう大きさ、手が写っているためによくわかるという余録もある。(羽鳥書店、4000円)

評・三浦佑之